

【家庭数】

横浜市立永谷小学校

令和8年6月26日



学校だより
ながや

今年度も子どもたちの様子についてホームページを活用してお知らせします。月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。

学校ホームページ

QRコード



「どうしてそうじしているんですか」

校長 神田 敏之

朝、門のところで子どもに聞かれました。

「みんなが気持ちよく学校に来られるようにだよ」と答えました。桜の花びらから始まり、今は落ち葉が多く、門のところであいさつをするかたわら、ほうきをもって掃除をしています。きっと子どもなりに感謝の気持ちを表してくれたのだなあと思いました。

先日の参観日にはどの学級も「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の活動を見ていただきました。一人ひとりが自己肯定感を高め、自己の存在を確認できること、問題や課題に対して効果ある対処法を選択し、誰かに助けを求めたり、自分で解決していくための「社会的スキル」を身に付けたりすることなどを学ぶプログラムです。横浜市立のすべての学校で取り組んでいるものです。

大人が示した価値観を習うのではなく、活動を通して気付いたことを互いに共有することにより、それぞれが自分で学び、力を付けていきます。その1時間の中の活動で学んだことを日常生活でも意識していくことにより、学びを深めていきます。

6年生では「一番大切なのは・・・」というプログラムをしました。自分の考えをもちつつ、集団として意思決定をしたり、それに合意したりすることができるという活動のねらいです。

まず個人で「家族、お金、思い出、命、友達、夢、勉強」の言葉で大切だと思っている順に順位を付けます。次にグループの中でその順位を発表し合い記録します。それをもとに、このグループでの順位を話し合いで決めます。

次のような振り返りがありました。

○人それぞれで感じ方や考え方の違いがあることに気づいた。

○自分の意見を押しまくること、相手の意見ばかり優先させることがだめで、両方が納得するようにすること。

集団で意思決定するときには、いろいろな方法が考えられます。多数決はそのうちの一つです。多数決で決めると、仕方がないと思いつながら感情では納得できないことが残ることがあります。今回のような話し合いでは、少数意見でも話し合いの中で、参加者が納得をすれば、そちらが採用されることもあります。話し合いの合意形成では、採用されなくても自分の意見を聞いてもらえたという点で納得できる場合もあります。このような気持ちの折り合いの付け方を、日々の生活を通して学んでいけるようにします。

学んだことは、すぐに使えるようになるわけではありません。何回も挑戦してだんだんに使えるようになっていきます。学校教育では長期の視点で子どもの成長を見守っていきます。